

9 古典(1)

基本問題



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔秋田改〕

さしたることなくて人のがり行くは、良からぬことなり。用ありて行きたりとも、そのこと果てなばとく帰るべし。久しくゐたる^①いとむつかし。人と向かひたれば、ことば多く、身もくたびれ、心も静かならず。よろづのことさはりて時をうつす、互ひのため益なし。いとほしげに言はんもわろし。心づきなきことあらん折は、なかなかそのよしをも言ひてん。

同じ心に向かはまほしく思はん人の、つれづれにて、今しばし、けふは心静かに。」など言はんは、この限りにはあらざるべし。

〔徒然草〕より

(注) さしたること〓これという用事。 人のがり〓人のもとに。

よろづのこと〓全てに。 時をうつす〓むだに時間を過してしまふ。

いとほしげに言はんも〓ささいやそうに言うのも。 心づきなき〓

気に入らない。 なかなか〓かえて。 言ひてん〓言つてしまふ

ほうがよい。 同じ心に向かはまほしく思はん人の〓たがいに向き

あつていたいと思う人が。

歴史的仮名遣い 原則を覚えよう！

(1) 〓線①「ゐたる」、②「向かひ」、③「よろづ」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

古語の意味

現代語との違いに注意しよう！

(2)

線①「いとむつかし」、②「さはりて」の意味として最も適切なものを、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 非常にわかりにくい イ いささか気味が悪い
ウ 少しみつももない エ たいへんわずらわしい
- ② ア さしつかえて イ 接触して
ウ ぶつかって エ 腹が立って

古語の意味

文脈からも判断しよう！

(3) I:「すぐに」、II:「することがなく退屈で」という意味に当たる言葉を、文章中から抜き出しなさい。

I

II

内容理解 場面と話題を捉えよう！

(4) 線③「互ひ」とは、誰と誰のことですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者とその家族 イ 訪問客と訪問された家の主人
ウ 訪問客どうし エ 訪問された家の主人とその家族

内容理解 客に対する態度を述べている部分を探そう！

- (5) 線④「いとはしげに言はんもわろし。」とありますが、では、どうすればよいのですか。それが書かれている一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

内容理解 省略されている言葉を考えよう！

- (6) 線⑤「今しばし、けふは心静かに。」とありますが、これに込められた気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もう少しお待ちください。今日は周りが静かになってから語り合いましよう。

イ もう少し冷静になってください。今日は、落ち着いて語り合いましよう。

ウ もう少し後でおいでください。今日は、用事が済んでから語り合いましよう。

エ もう少しお話しください。今日は、ゆっくりと語り合いましよう。

要旨 文章の最初と最後に注目しよう！

- (7) 筆者は、用事があって他人を訪問したときの心得として、どのようなことを述べていますか。「……ということ。」に続くように書きなさい。

ということ。

書き方のポイント

- (1) 歴史的仮名遣い

古文で使われている仮名遣いを、歴史的仮名遣いという。

〈歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す場合〉

母音+う (ふ)		くわ・ぐわ	ゐ・ゑ・を	ぢ・づ	は・ひ・ふ・へ・ほ	歴史的仮名遣い	現代仮名遣い
エ段+う (ふ) (eu)	イ段+う (ふ) (iu)					ア段+う (ふ) (au)	オ段の長音 (o)
よう (yō)	ゆう (yū)	か・が	い・え・お	じ・ず	え・お	わ・い・う・ え・お	現代仮名遣い
けい (kei)	うつくしう (utukushiū)	まうす (mausu)	をどり↓おどり (踊り)	まゐる↓まいる (参る)	か	かは↓かわ (川)	例
↓きよう (kyō)	うつくしう (utukusyū)	↓もうす (mōsu) (申す)	くわじ↓かじ (火事) ぐわん↓がん (願)	こゑ↓こえ (声)	やよひ↓やよい (弥生)	たびぢ↓たびじ (旅路)	
						いたづら↓いたずら	

- (2) (3) 古語の意味

古文特有語と古今異義語に注意する。

古今異義語	古文特有語
例 現代語と形が似ていても意味が異なる語 をかし「趣深い」やがて「すぐに」	例 現代では使われなくなった古文特有の語 いみじ「すばらしい・甚だしい」 つとめて「早朝」

9 古典(1)

◆基本問題◆

↓ 64 ~ 65 ページ



- (1) ① いたる ② むかい ③ よろず
① エ ② ア
I とく II つれづれに (て)
イ
心づきなき言ひてん。
工
(例) 用事が終わったたらすぐに帰ったほうがよい (ということ。)

解説

- (1) ① a 「ぬ・ゑ・を」は、「い・え・お」に直す。b 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」に直す。c 「ぢ・づ」は、「じ・ず」に直す。
(2) ① 「いと」は副詞で、「たいへん・非常に」という意味。「むつかし」は形容詞。現代語の「むずかしい」と形は似ているが意味は異なる、いわゆる古今異義語である。「わずらわしい・不快だ・うっとうしい」という意味を表す。ちなみに、「むずかしい・困難だ」という意味を表す古語には「難し」がある。② 「さはる」は現代語の「触る」と同じ形だが、意味は異なり、「さしつかえる・支障がある」という意味である。漢字を当てれば「障る」である。現代語には「さしさわりがある」などの表現に残っている。
(3) I 「とく(疾く)」は副詞で、「すぐに・早く」という意味の古文特有語。II 「つれづれに」は、形容動詞「つれづれなり」の連用形。「することがなく退屈だ・手持ちぶさただ」という意味である。
(4) 文章の初めに示されている「これという用事がなくて人のもに

行くのは、よくないことである。」という主題にそって、誰と誰のことかを考える。

- (5) 直後に書かれている。客に対してさも嫌そうに言うのはよくなく、気に入らない理由をはっきり言ってしまうほうがよいというのである。

- (6) 線⑤をそのまま訳すと「もう少し、今日はゆっくり落ち着いて。」となるので、「今しばし」と「心静かに」の後に省略された言葉を補って、ここに込められた気持ちを考える。直前に「同じ心に向かはまほしく思はん人の、つれづれにて(「互いに向き合っていたと思う人が、することがなく退屈で」とあり、——線⑤はこの「人」の発言であることがわかる。また、後には「この限りにあはざるべし(「この限りではないだろう」とあって、この部分でこれまで筆者が述べてきたことの例外に当たることが示されている。ここでは、本来は訪問客は用事が終わったらすぐに帰るべきだが、好ましい相手が「もう少し(お話しください)、今日はゆっくり落ち着いて(語り合います)。」などと言うときは、この原則に当てはまらないということを行っているのだとわかる。

- (7) この文章は、筆者が最も言いたいことが最初に提示され、続いてその理由などが説明され、最後に例外がつけ加えられる、という構成になっている。それを踏まえたうえで、「そのこと果てなばとく帰るべし」をもとに書けばよい。「果てなば」は、「未然形+ば」(動詞「果つ」の連用形「果て」+完了の助動詞「ぬ」の未然形「な」+接続助詞「ば」)で、「終わったら」という意味である。

【現代語訳】

これという用事がなくて人のもに行くのは、よくないことである。用があつて行つたとしても、その用事が終わったらすぐに帰るのがよい。長くいるのは、たいへんわずらわしい。人と向かい合っていると、たくさん話をし、体も疲れ、心も静かでない。全てにさ

しつかえて無駄に時間を過ごしてしまうのは、互いにとって無益である。(かといつて、客に)さも嫌そうに言うのもよくない。気に入らないことがあるようなときは、かえってその理由を言ってしまうほうがよい。

(ただし)互いに向き合っていたいと思う人が、することがなく退屈で、「もう少し(お話してください)、今日はゆっくり落ちついて(語り合いましょう)。」などと言うような場合は、この限りではないだろう。